

新時代の使命に向けて

巻頭言

松田 治和*

(50周年記念事業実行委員長)

For new mission in new age

Key Words : 技術移転 technology transfer
産学連携 industry-university cooperation

本協会が記念すべき50周年を迎えられ、本年1月に式典とともに1年間に亙る数々の記念行事を盛会裡に締めくくられたことを心からお祝い申し上げます。

50年前の本協会設立趣意書の中に、戦後の荒廃から立ち上がるべく、「先進諸国に伍して前進せんとする中小工業界は科学性を基盤とし、秩序ある生産工程を踏まねばならぬ」、また本協会が「大阪大学との特別な諒解の下にその抱擁する教授陣と提携、新日本生産技術水準の向上に当たる」とその使命が謳われている。また設立を機に発行された本誌第1巻第1号は、編集委員として赤堀理学部長、七里工学部長をはじめ、理・工・医学部での大阪大学を代表する著名教授が名を連ね、その方々による内容の濃い技術解説が盛られた豪華版となっている。これら当時の記録をひもとくと、大阪大学と産業界でそれぞれ活躍された先輩諸兄が、我が国の技術的再出発に燃やされた並々ならぬ情熱をひしひしと感じるのである。そして近年における産学連携の新しい潮流のもとで、偉大な先人によって設立された本協会の役割が改めて見直されつつあることは大きな意味を持つものである。とくに最近のようにグローバルにも未曾有の経済的低迷が続き、ただ独り元気なアメリカにさえも不透明感が出ているという、見方によってはかつての戦後を上回る混乱の時代にあつてはことさらその感が深い。

身近な大阪を見ると、府下には近年漸減の傾向にありながらも3万6千の製造事業所が密集し、その中で中小事業所が占める割合は全国で最も高い。そ

れらの業種は他の府県と違って広範囲にまたがり、それぞれがモノ作りに貢献しつつ大阪の活性を支えてきたのであった。いまそれらの中小企業では成熟化、空洞化、途上国からの追い上げなど従来潜在的に抱えていた課題が長引く景気の低迷で表面化し、深刻な事態を迎えるに至っている。大阪だけではなく日本列島総不況と言われる中で、政府としても世界的に最も注視される金融不安の解消策とともに、産業の高度化と新産業の創出に向けて数々の施策を自白押しに打ち出した。

このような社会情勢において、50年前における本協会設立の思想を改めて振り返る必要がある。かつての戦後における再出発と、技術的、経済的にグローバルな競争を強いられる今日の取り組みとでは技術水準に大きな違いがあるにしても、イノベーションを目指す姿勢に本質的な変わりはない。しかし現在は基礎原理の発見から実用化までが昔に比べて驚くほどスピードアップされているだけに、ニーズへの技術的対応ならびにシーズの実用化研究が以前より遙かに厳しく急がれる環境にある。

昨年3月末、大阪府では産業科学技術振興指針をとりまとめた。そこでは研究開発の推進とともに、その成果を事業化につなげる「仕掛け」の構築が基本目標として掲げられている。既に多くの大学の中にも産学の共同研究や先端技術支援のための組織が次々と生まれつつあるが、中小企業にとっての産学連携は言うほど容易なものではないことをかなりの人たちが経験しているのではないだろうか。そこに必要なのは連携活動を潤滑する「仕掛け」であり、加えてキメ細かいサービスが出来るコーディネーターの存在であろう。

高いポテンシャルを誇る大阪大学の研究の内の幾つかが新産業技術として開発意欲に満ちた企業に移転され、産学連携型の新産業としてどしどし具体化して欲しいものである。そして成功させるひとつの「仕掛け」として本協会が役立つならば、50年の歴史の意義はよりいっそう高まるであろう。



* Haruo MATSUDA
1929年11月30日生
大阪大学旧制大学院研究奨学生5年
終了、大阪大学名誉教授
現在、大阪府立産業技術総合研究所、
所長、工博、有機工業化学
TEL 0725-51-2500
FAX 0725-51-2513
E-Mail matsuda@tri.pref.
osaka.jp